

チューニング費用一覧

品名	単価	小計
*ADVAN 021R(185/60R14)×4	31200円	124800円
*エンケイ RC-S(6JJ)×4	32000円	128000円
合計①		252800円
*オーリンズ ガスショック		148000円
*オーリンズ サスペンション		48000円
*トラスト GREX PRO(F&R)		50000円
*トラスト スーパー DOT4(1ℓ)		3800円
*フィールド 技研 アクティブROM(ノーマル下取り時)		120000円
*フィールド 技研 レブカウンターRC-1	25000円	38000円
*クスコ ロードスター用機械式LSD		75000円
*HKS NALレーシング(4ℓ罐)		8800円
*HKS ギヤオイル(1ℓ罐)		3000円
*アイメック OTF(4ℓ罐)		7500円
合計②		502100円

エンジンはオーバーホール&バランス取りまでしたかったが、「そこまで予算がない」の一言で却下。そのかわり、オイルはメイイッバイこだわってHKSのNALレーシングをチョイスした。

今回、一番のポイントとなるのはアライメントとトレッドの設定だ。マッキー牧原先生曰く「これで2秒は速くなるでえ」という秘密のセッティングを施したのだ。フロントはトーアウト気味に振り、キャンバーはネガティブ側に一度30分。キングピンも寝かし気味にする。リヤはトーゼロに近づけ、キャンバーはネガティブ側に3度とキツめた。

「トレッドがキモや。フロント/リヤで10mmの差が出ればノーマルのアンダー症状が消えて、メチャ曲がりやすくなる」と言う。そこで、ホイールはエンケイに特注でオフセットの変更をもらい、

ヘルメットを新調し、カラーリングも施した。元フィンランドの走り屋ニイチャンで、雪上でドリフトしまくっていたというF1ドライバー、ミカ・ハッキネンのデザインをいただき。なんつって予選じゃセナとタメ勝負だモンね。この気分チューンで1秒は速くなったぜ。



フロントはオフセット25。リヤは19と設定した。マシンの組み上げはトリアルさんのほうでお願いし、この他にも、もろもろの細かい処理を施していただいた。さあ、あとはシエイクダウンしてデータをとり、レースのシミュレーションを組みだせ!

シエイクダウンは順調。タイムもそこそこで、コリヤ勝てるかもしれないゾ!

シエイクダウン前日、トリアルでの作業は深夜までおぼんだ。最後の仕上げ、ステッカー貼り、指示するマッキー牧原シェンシエイ、オー、腰が入ってへんで、腰が、って、腰入れてどうするんでせう?



やっとの思いで走りだすOPTION走り屋ロードスター。エタニテイ宮川のドライブでT1サーキットでは2分3秒台という上々のタイムを記録した。



マッキー牧原シェンシエイと秘密の作戦会議を行なう二人。「ここまでやったんやから、絶対に表彰台、登らなあかんてえ。もしダメやったら、うちで1日テッチ奉公や」と、ゲキを飛ばされる。



これがワウワの追加剤OTF。アルコール系合成でオクタン価を上げ、燃焼温度を下げる効果がある。限られた条件の中でパワーを稼ぐためには有効で、2輪レースやターボなどでは相当の成果を上げており、最近、注目度が高くなっているブツだ。シエイクダウン時のラップタイム差ではラフに1秒はアップしており、その効果は目を覚ますものがある。



助手席の足元には空燃比計を設置し、データも取った。この結果からコンピューターのセッティングを割り出し、もっともパワーがあり、燃費にもすぐれたセッティングへと詰め直す。結構、本格的でしょう。

シエイクダウンはレースの前々日、T1サーキットで行なうことになった。今日は空燃比計まで持ち込み、コンピューターのセッティングを見る予定だぜ。

トリアルさんの検メカに各部をチエックしてもらい、エンジンに火を入れる。ノーマルマフラーなので音はしょぼいが、走りだしてみると、これがなかなか速い。フィ

ールド技研にあらかじめ作っておいてもらったコンピューターに変更してからはさらにタイムが縮まっていた。フィールドのアクティブ・ロムに仕込んだ4バターのセッティングを走行しながら切り替え、データを取る。一番タイムが出て、空燃比が薄く(燃料の総量規制があるから)、レスポンスの良いセッティングを探すのだ。

セッティングパターンはハイエンドでのピークパワー重視型と中間域のレスポンス重視型が2種類ずつ。事前にシャシダイチエックも行っておいたが、パワーは128ps程度は出ていたゾ。

結果は意外にもレスポンス重視型のほうが安定して、いいタイムが出るのが判明。ピークパワー重視型は予選スペシャルとし、本戦にはこちらのレスポンス重視型で、4000~5500rpmの中間域で燃調をさらに3%ほど薄くしたセットで挑むことになった。タイム的にも「まあ、合格点やな。これだったら表彰台も狙えるな」と、牧原先生に太鼓判を押してもらった。

最終兵器としては、最高速チャレンジで愛知のアイメックが使っていた究極の添加剤OTFも入手。コイツがあればノーマルガスもエルフのスペシャルガスに早変わりってなシロモノで、アイメックの時実さんの「これで、5psはアップします。ストレートはブツギリです」の言葉どおり、ストレートエンドでの回転数もかなり高めることができた。

低予算でなんとかマツダスピードのキットと同レベルのクルマに仕上げることはできた。あとはドライバーのウデ次第。残すは10月16日の本戦だけだ。果たして結果は?